

## 第2節 自然環境質

自然環境を構成するものとしては、植物、動物、景観、地形、地質、土壌、水界、気象などがあげられる。しかし、このような複雑な要素のすべてを本計画の対象項目として取り上げることが現状においては困難である。よって、自然環境を構成するこれらの要素のうち、植物、動物、景観の三要素は、直接的、間接的に自然環境を表現しているものと考えられること、また、これら三要素は、現状の科学的知見によって指数による評価が可能であることから、これら三要素を本計画における対象項目とした。

自然環境質に係る計画対象項目

対 象 質	対 象 項 目
自 然 環 境 質	植 物 , 動 物 , 景 観

自然環境質に係る当該三要素について検討した結果の概要は次のとおりである。

### 1. 植 物

植物は、自然環境の基礎的な構成要素であり、天候や地形などの自然条件を最もよく反映し、その環境に適応して成立しているものである。

特に植生は、個々の植物がその場所やその地域に適応した群落としての姿を示しているものである。

よって、県下に成立している植生65群落のすべてについて現状評価をすることにより本計画の対象項目とした。

### 2. 動 物

動物は、基本的には植物に依存し、おのおの独自の生息分布を示している。動物はそれ自体多種に分類され、自然環境の構成要素としても特に重要である。

よって、本計画においては県下に生息している代表的な哺乳類13種類、鳥類25種類、昆虫類30種類について現状評価をすることにより、その対象項目とした。

## 3. 景 観

景観は、地形、地質、土壌、水界、気象などが極めて重要な要素である。このため、景観の現状について現状評価をする。